色彩教材研究会通信　No.369　2023.12.21

発行人：永田泰弘
nagataya@jcom.zaq.ne.jp

源氏物語の色 -48「椎本（しいがもと）」

死期をさとった八の宮は、男手一つで養ってきた娘二人（大君と中の君）の将来を不安に思い、後見を薫に懇願する。薫が二十三歳の年の七月のことである。その翌月、山寺での修行中に八の宮は死去。残された姫君達は傷心の想いを語り合いながら、涙の乾く間もなく過ごすうちに、年が暮れた。

薫は、たびたび宇治の八の宮邸を訪れ、中の君には匂宮との結婚をすすめ、自分は大君と結ばれることを願っていることを示唆するが、父を亡くした悲嘆は深く、心を閉ざした大君には、とりあってもらえずにいた。

翌年の夏、薫が八の宮邸を訪れた際、襖の奥に姫君達の姿を垣間見る。中の君は濃い鈍色の単衣（ひとえ）に、萱草（かんぞう）色の袴をつけ、大君は黒い袷（あわせ）を着て、紫の紙に書いた経を持っている。

鈍色や黒を身に着けているのは、亡き父の喪に服しているためであろう。萱草色もまた喪服に用いられた色で赤みを帯びた黄色。染料には、梔子、黄蘗（きはだ）と紅花、蘇芳と明礬（どうき）など、諸説有る。

この場面で薫は、とりわけ大君の美しさに、より想いをつのらせる。

（平山和香子）

●学会ホームページ中の色彩教材

日本色彩学会のホームページの底の方に、小生が、カラープランニングセンターに在職中に作成した色彩教育初歩の色彩教材になると思われる材料が埋もれているので、自画自賛承知で、お知らせします。

ホームページの最初の「お問い合わせほか」の中の「リンク集」を開き、関連団体の次の、賛助会員の最初にある「大日精化工業株式会社」を開くと、サイトマップが出ます。

その最後の「技術情報」の中の４番目の「色彩知識」が目的地です。

「色彩知識」は、「色彩用語解説」、「表色系システム」、「色の名前」、「７色印刷システム」、「色彩技術」に分かれています。

「色彩用語解説」は 67 語の専門用語の解説が掲載されています。

「表色系システム」は、８種類の表色系が、カラーの図版とともに掲載されています。

「色の名前」は、「基本色彩語・色名の普遍化と進化」や、私が作成した色名の調査結果、デザイン作業の役に立つパソコンデザイン用のツールの表色系があります。

最後の「色彩技術」は、コンピュータ・カラーマッチングの簡単な解説です。

一度、ご覧ください。　（永田泰弘）

●大辞泉ひろいよみ　48 ーき

黄色い声：女性や子供などのかん高い声。
黄漆：きうるし。透き漆に黄色の顔料をまぜた漆。毒性が強い。
黄威：きおどし。黄染めの糸・革を用いた鎧。
黄苑：きおん。キク科の多年草。深山に生える。夏、多数の黄色い花を散房状につける。ひごおみなえし。
黄紙：きがみ。江戸時代、奉行などが上司に差し出す伺い書に添付した黄色い紙片。
きがらちゃ：黄枯ら茶。黄唐茶。染め色の名。薄い藍色を帯びた薄茶色。「黄枯ら茶飯」の略。
桔梗色：桔梗の花のような青みがかった紫色。
きくがさね：菊襲・菊重ね。女房の重ねの袿の配色の一。表着は白、袿は五衣で白・白・薄紫・薄紫・紫とする組み合わせなど、いろいろある。秋に着用する。
麹塵：きくじん。色の名。灰色がかった黄緑色。」染め色では紫根と刈安で染める。織り色では縦糸を青、横糸を黄で織る。天皇の袍の色で禁色とされた。山鳩色、きじん、きちん。「麹塵の袍」の略。
麹塵の袍：天皇が賭弓、臨時祭、五月の競べ馬などに略儀の着衣用する袍。青色の袍。
黄朽葉：染め色の名。梔子に茜または紅をまぜた黄色を帯びた橙色。織り色の名。　（永田）

●原稿募集中：この通信の原稿を募集しています。タイトル 15 字以内。本文 480 字以内。写真は一枚以内（要文章削減）。送信先：右上。